

地 理 歴 史

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 地理歴史科における個別最適な学び、協働的な学び

学習指導要領では、子どもたちの多様化が一層進む中で、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用しながら、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ることとされている。

個別最適な学びは、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念であり、次のような指導の個別化と学習の個性化という二つの側面で整理される。

【指導の個別化】

基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、支援が必要な子どもに対して、重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現することや、特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うこと。

【学習の個性化】

基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整すること。

協働的な学びは、個別最適な学びが「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら行う学びであり、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるようにするためには、協働的な学びの充実が重要である。協働的な学びにおいては、集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出すようにすることが大切である。

地理歴史科においては、各科目の特質に応じた見方・考え方を働かせて学ぶことにより、事実等に関する知識を相互に関連付けて概念に関する知識を獲得したり、社会的事象からそこに見られる課題を見いだして、その解決に向けて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにし、主体的に社会に関わろうとする態度を養うようにしたり、生徒同士の協働や学習の内容に関係する専門家などとの対話を通して自らの考えを広め深めたりするなどして深い学びを実現するよう、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが求められる。次の「歴史総合」の1単位時間の学習指導案の例は、個別最適な学びと協働的な学びの場面及び留意点等を示したものである。

<学習指導案の例>

【単元】 現代的な諸課題の形成と展望

【本時のねらい】 これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が自ら主題を設定して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、現代的な諸課題を理解するための見通しを立てる。

過程	主な学習活動 ◇学習活動概要 ◆指導上の留意点	評価の観点			評価規準等 ○「評定に用いる学習」 ●「学習改善につなげる評価」 ●自らの学びを振り返り、自身の課題意識から、現代につな
		知	思	態	
導入	◇これまでの「歴史総合」の学習を振り返り、生徒がそれぞれの興味・関心に基づいて自ら				

個別最適な学び	主題や問いを設定し、その解決に向けた見通しを立てる。 ◆設定した主題や問いについては、どのような資料を活用し、何をどこまで明らかにするか計画を立てるよう助言する。 ◆ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）等を蓄積・分析・利活用する。		●	がる主題を見だし、見通しをもって学習に取り組もうとしている。（ワークシート）
展開	◇自ら設定した主題や問いについて、グループで発表し、意見交換を行う。 ◇各グループの議論の内容について、発表し、共有する。			【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】 ・問いに対する予想を立てることが困難な場合には、生徒が学習を見通せるよう、これまでの学習内容をカード等に整理して考えやすくするなどの工夫が考えられる。 ・情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか判断することが難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成するなどの配慮が考えられる。
協働的な学び	◆生徒同士で互いに疑問点や新しい視点などを意見交換し、相互の探究活動の質を高める。 ◆発表に当たっては、積極的にICTを活用し、分かりやすく効果的な発表となるよう指導する。		●	●グループで議論しながら、自分が設定した主題や問いについて、背景や原因、結果や影響などに着目して、現代的な諸課題を展望するなど多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
まとめ	◇グループ内やクラスでの発表を踏まえ、自ら設定した主題や問い、その解決に向けての見通しについて修正する。		●	●他の生徒の意見も参考に、自身の学習計画について振り返り、自ら学習を調整しようとしている。
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実				

(2) 地理歴史科における共通性の確保を目指した学び

「共通性の確保」については、全ての高校生が社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けられるよう、生徒一人一人の特性等に応じた多様な可能性を伸ばすための「多様性への対応」を併せて進めることによって、高等学校教育の質の確保・向上を目指すことが求められている。

地理歴史科においては、(1)で示した例のように、これまでの学習を踏まえて、自ら主題や問いを設定し、多様な他者と協働しつつ、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して現代的な諸課題を展望するなど、多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養いながら、自分なりの意見や考えをまとめるような学習活動や評価規準を設定することで「共通性の確保」を図ることが考えられる。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

実際の授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わせられて実現されていくことが多いと考えられる。例えば、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更に、その成果を「個別最適な学び」に還元することが大切である。その際、生徒の資質・能力の育成のため、地域・学校や生徒の実情を踏まえながら、ICTを活用した新たな教材や学習活動等も積極的に取り入れつつ、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に効果を上げているか確認しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが期待される。

また、評価に際しては、(1)で示した例のように、生徒が「個別最適な学び」で思考・表現した内容が、「協働的な学び」を通してどのように変容したのかについて、教師がワークシートや生徒の話合いの様子から見取り、必要に応じて適切な支援を行うなどした上で、例えば、主体的に学習に取り組む態度の評価においては、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度」を評価することが大切である。

2 指導と評価の計画例

(1) 地理総合「B(1)『生活文化の多様性と国際理解』」の計画例

ア 単元の目標

- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「世界の多様な生活文化について知ること、尊重すること」などの主題を設定し、「人々が他の生活文化を尊重するためには、どのような視点で考える必要があるのか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的学習の取組態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「世界の多様な生活文化について知ること、尊重すること」などの主題を設定し、「人々が他の生活文化を尊重するためには、どのような視点で考える必要があるのか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現に向けて主体的に課題を追究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（16時間）※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

次【時間】	ねらい、学習活動等（学習の概要、主発問、指導上の留意点）	評価の観点		
		知	思	態
第1次 【5時間扱】 個別最適な学び 協働的な学び	【単元全体に関わる問い】人々が他の生活文化を尊重するためには、どのような視点で考える必要があるのか ○単元の導入 自分で事例として設定した地域の生活文化の考察を通して、単元全体に関わる問いに対して個人で考察する。 【学習課題】世界各地の生活文化はどのように育まれてきたのか ○単元内における自由進度学習（オ(ア)参照） ①対象地域を1つ設定し、生活文化について調べる ②その生活文化はどのように育まれたのかを考察する。 ③考察のプロセスを振り返り、今後の学習に生かす点を見いだす。			<ICTの活用> 1枚ポートフォリオをGoogle Classroomで配信し、単元全体に関わる問いに対する仮説を入力する。 <ICTの活用> スプレッドシートに考察内容を記入させ、考察の途中経過や他者の考察を参照できるようにする。
第2次 【5時間扱】 大項目Aで身に付けた地図ソフト活用スキルを活用する。	【学習課題】私たちの生活は自然環境からどのような影響を受けているのか 《視点①：地形》地図ソフトなどを活用し、世界各地の地形について確認する。 《視点②：気候条件》気候因子を確認し、気候が場所により異なる理由を理解する。 《視点③：植生》気候区分をもとに気候分類と植生の関連性について理解する。 《視点④：衣食住》写真から読み取れる情報を整理し、気候区分と関連付けて、根拠とともに表現する。		●	●
【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】 地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し視点を明確にするなどの工夫が考えられる。				
第3次 【2時間扱】 本時	【学習課題】自然環境が似ているニュージーランドと日本は生活文化も似ているのか <ul style="list-style-type: none"> ・第2次の観点で両国の自然環境を比較し、類似していることを確認する。 ・両国の生活文化についての類似点と相違点について情報を整理し、相違点が生じる理由について考察する。 ※自然環境から社会環境へと生徒の視点を移すきっかけをつくる。		●	○

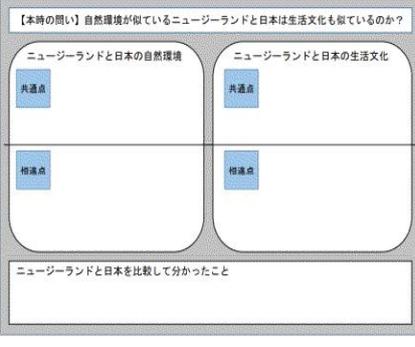
<p>第4次 【3時間扱】</p>	<p>【学習課題】社会環境は私たちの生活にどのような影響を与えているのか</p> <p>《視点①：宗教》三大宗教の特徴についてまとめ、宗教が生活に与える影響を考察する。</p> <p>《視点②：歴史的背景》ラテンアメリカを例に、言語や民族の分布から、歴史的背景を踏まえた影響について考察するとともに、生活文化に与える影響についても考察する。</p> <p>《視点③：農業の発展》生産性の観点から世界の農業の分類について理解し、農業の発展が人間の生活に与える影響について考察する。</p> <p>《視点④：工業の発展》工業の地域差・立地について主題図などを用いて理解し、工業の発展が人々の生活に与える影響について考察する。</p>	<p>大項目Aで身に付けたグローバル化の視点を活用する。</p> <p>○ ●</p>
<p>第5次 【1時間扱】</p>	<p>【単元全体に関わる問い】人々が他の生活文化を尊重するためには、どのような視点で考える必要があるのか</p> <p>・単元全体に関わる問いに対する自分の考えを表現するとともに、共存するための新たな社会の在り方について、自論を形成し、他者と議論する。</p>	<p>○ ○</p>

エ 学習指導案（11時間目／16時間中）

(ア) 本時の目標

自然環境が類似しているニュージーランドと日本の共通点と相違点を考察し、表現することで、自然環境とともに、社会環境も生活文化に影響を与えていることを理解する。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
<p>導入 15分</p>	<p>○本時の学習課題を提示</p> <p>【本時の学習課題】自然環境が似ているニュージーランドと日本は生活文化も似ているのか？</p> <p>ステップ1：ニュージーランドの自然環境と生活文化についてホワイトボードアプリ上でまとめる。</p>	
<p>展開 25分</p>	<p>○FigJam上でまとめたものを用いて次の作業を行う。</p> <p>ステップ2：ニュージーランドと日本の共通点と相違点をホワイトボードアプリ上で分類する。</p> <p>ステップ3：ニュージーランドと日本の相違点に着目し、なぜ生じたのかを調べる。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<p>○本時の学習課題について考察する。</p> <p>ステップ4：本時の問いについて、展開で考察したことをもとに考える。</p> <p>○グループで導き出した解をホワイトボードアプリで共有する。</p>	

個別最適な学びと協働的な学びを効果的に組み合わせ、自己調整できるようにする

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学習の流れを理解させるための「手引」の活用

ある単元で生徒それぞれが地域等を設定し、定められた時間内で自由進度学習をする際には学習の手引等で学習の方向性を示すなど、生徒が学習の進め方の見通して主体的に学習に取り組めるようにすることが大切である。



【手引の二次元コード】

(イ) ポートフォリオ及びICTを活用した評価の例

教師が指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを把握し、指導の改善に生かしていくことが大切である。なお、評価に際しては、ポートフォリオを用いたり、Googleフォームを使用してリフレクションしたりするなど、ICTの効果的な活用により生徒が自らの学びを振り返ることができることから、個々の学習に応じた適切な評価が可能になる。



【ポートフォリオの二次元コード】

(2) 地理探究「A (2) 資源、産業」の計画例

ア 単元の目標

- ・工業に関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や工業に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。
- ・工業に関わる諸事象について、場所の特徴や結び付きなどに着目して、「工業の種類と立地の変化」などの主題を設定し、「持続可能な社会づくりを担う工業とはどのようなものだろうか」などを、考察し、表現する。
- ・資源・産業について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・工業に関わる諸事象を基に、空間的な規則性、傾向性や、工業に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解している。	・工業に関わる諸事象について、場所の特徴や結び付きなどに着目して、工業の種類と立地の変化」などの主題を設定し、「持続可能な社会づくりを担う工業とはどのようなものだろうか」などを、考察し、表現している。	・資源・産業について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（5時間） ※○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

次 【時間】	ねらい、学習活動等（学習の概要、主発問、指導上の留意点）	評価の観点		
		知	思	態
第1次 【1時間抜】 追究する課題の把握 関連知識の獲得 本時	【単元全体に関わる問い】 持続可能な社会づくりを担う工業とは、どのようなものだろうか。 【学習課題】 各工業の立地の変化は、世界にどのような変化をもたらしているのだろうか。 ・各工業の立地特性や主要国における工業の立地の変化を理解し、そのことが世界にどのような変化をもたらしているかなどを考察し、表現する。		●	●
第2次 【1時間抜】 仮説の設定 個別最適な学び	【学習課題】 工業における「地球的課題」とは何だろうか。持続可能な社会づくりを担う工業について、どのような仮説が考えられるだろうか。 ・工業に関する「地球的課題」とは何かについて考え、持続可能な社会づくりを担う工業への取組について「仮説」を設定する。 【仮説の例】 「循環型社会に高付加価値を付けることで、衣服の大量生産・大量消費による大量廃棄の削減し、新たな産業を興すことができるのではないだろうか。」		●	●
第3次 【1時間抜】 情報の収集 仮説の検証 個別最適な学び	【学習課題】 仮説を検証するためには、どのような調査が必要だろうか。 ・図書館やインターネットで情報を収集したり、企業等への聞き取り調査をしたりする。 【収集する情報の例】 衣服生産の際に生じる環境負荷の程度や、循環型社会に向けたCSRの事例について、図書館等を活用して情報収集を行うことが考えられる。 【現地調査（フィールドワーク）の例】 街頭の人々に聞き取りを実施する場合、生徒自身が仮説に関連した資料等を分析した上で、具体的に何を聞き取るかをあらかじめ検討して現地調査に当たることが大切である。			

ワークシートをGoogleClassroomで共有する。

例として、「繊維工業」を主題として設定し、「衣服の大量生産・大量消費・大量廃棄の生活様式を見直し、循環型社会を推進するためにはどうすればよいか」という問いを設定した探究学習を掲載する。

<p>第4次 【2時間扱】</p> <p>仮説の立証</p> <p>協働的な学び</p>	<p>【単元全体に関わる問い】持続可能な社会づくりを担う工業とは、どのようなものだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証した結果について、<u>地理情報システム</u>等を活用し、表現する。 ・他者の発表や意見を聞き、疑問点や新しい視点などを踏まえ「問い」に対する「答え」を見いだす。 <p>【期待したい表現の例】「大量に廃棄される衣服をバイオマス産業へ活用する産業」や「循環型社会を促進するためのシステムを構築する産業」といった、大量に廃棄される衣服を有効活用した新たな産業が提案されることが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりを担う工業に向けた課題や対策について考えたことを、これまでの中項目A(2)「資源、産業」の学習全体を振り返りながら、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理情報システムを活用し、読み取ったことを考察する。 ・地理情報システムの活用方法が分からない時は、地理総合のワークシートを参照できるように、Google Classroomにリンクを貼る。 <p>【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】 方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにすること。</p>
--	---	---

エ 学習指導案（1時間目／5時間中）

(ア) 本時の目標

他者との協議等を通して、生徒が自ら立てた問いに対する答えを振り返り修正するなど、これまでの学びを自己調整しながら、多面的・多角的な視点から表現した内容を見直すことができる。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>【学習課題】各工業の立地の変化は、世界にどのような変化をもたらしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な工業について、<u>立地の変化</u>と世界の経済情勢との関連性等について問いを立て、考察、表現する。 <p>問いの例「衣服の大量生産において、生産拠点が変化しているのはなぜだろうか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工業立地の特性がわからないときは、地理総合のワークシートを参照できるように、Google Classroomにリンクを貼る。
展開・ まとめ 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを「Google Classroom」で共有する。 ・主題を設定し、立地の特性等を踏まえた工業の特徴についてワークシートに記入する。 ・自分とは異なる主題を設定した生徒の意見を参照したり、協働的な学びを通して、自分の設定した主題に関する工業が、今後どのような変化をしていくのかについて、自分の考えをまとめる。 	<p>生徒自らが他者の意見を参照したり、協働的な学びを選択できるようにする。</p> <p>【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】 動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい場合、写真などの資料や発問を工夫する。</p>

【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】
方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をワークシート等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする。
情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成する。

オ 個別最適な学び・協働的な学びを一体的に充実させる取組について

ワークシートをGoogle Classroomで共有することで、生徒はいつでも自分の考えと他者の考えを比較・検証することができる。生徒自身で仮説を検証する場面や、他者の意見を参照するなど、協働的な学びを踏まえ、生徒自らが自分に必要な活動を自己決定し、自らの学びを調整することができる。また、教師も生徒の思考の変化をいつでも見取ることができるため、生徒の学習改善につながるようフィードバックを行うことが可能になる。

なお、学習を展開する際には、生徒が社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるようにするとともに、見通しがもてるよう、ヒントになる事例を提示しながら学習の順序を分かりやすく説明することが大切である。

地理探究では、大項目Cで自ら探究する活動ができるようにするため、科目を通して身に付けさせる資質・能力を踏まえた年間指導計画の作成が大切である。

(3) 歴史総合「A 歴史の扉」の計画例

ア 単元（大項目）の目標

- ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。
- ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。
- ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、授業で取り上げる「私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性」について考察し、表現している。
- ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。
- ・歴史の扉について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 単元（大項目）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、授業で取り上げる「私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性」について考察し、表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の扉について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（2時間）※○「評価に用いる評価」、●「学習につなげる評価」

次 【時間】	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 【1時間扱】 個別最適な学び	【中項目(1)の問い】身近な飲食物と世界の歴史にはどのようなつながりがあるだろうか。 ・スイーツを題材に、身近な飲食物の歴史が現代の諸課題と関わることを理解しながら、歴史への興味・関心を高め、自ら課題を設定して調べ学習を行い、発表することで歴史の探究サイクルの一端を感じさせる。 年間指導計画の例 授業スライドの例 <small>ここをクリック</small>	●	●	
第2次 【1時間扱】 本時 協働的な学び	【中項目(2)の問い】資料を読解する際に「私たち」が意識すべきことは何か。 ・身近な事例を題材に、資料を現代まで伝えることの難しさを実感できるようにするとともに、知識構成型ジグソー法を用いて、資料から読み取る諸事象の解釈の違いが複数の叙述を生むことを確認する。	●	●	

【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】
資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、見る範囲を限定するなど、掲載されている情報を精選し視点を明確にするなどの配慮をする。

【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】
社会的事象等に興味・関心がもてない場合には、その社会的事象等の意味を理解しやすくするため、社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるように、特別活動などとの関連付けなどを通して、実際の体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにするなど配慮をする。

小・中学校の社会科で学習してきた知識を活用しながら発問に答えさせることで、中学校社会科の学習との円滑な接続を図る。

調べ学習では、好きな飲食物を設定させることで、歴史や調べることが苦手な生徒も主体的に楽しみながら取り組めるよう配慮する。

<協働的な学び>
知識構成型ジグソー法を用い、エキスパート活動、ジグソー活動、クロストーク活動での対話を通して、理解を深められるようにする。

エ 学習指導案（1時間目／2時間中）

(ア) 本時の目標

歴史が資料に基づいて叙述されていることを理解し、資料を読み解く際に留意すべき点について、自分の言葉でまとめることができる。

(イ) 本時の展開 ※授業で使用了ワークシート及びエキスパート資料は[こちら](#)

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 複数の解釈が成り立つ言葉が書かれた資料の提示や伝言ゲームを通して、資料を現代まで伝えることの難しさや解釈の多様性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を題材に、生徒が実感しやすいものを選ぶ。 歴史が資料によって叙述されること、その厳格な理解が歴史学習において重要であることを確認し、授業の「問い」につなげる。
展開 35分	<p>【本時の問い】資料を読み解く際に、「私たち」が意識すべきことは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風刺画を題材として、その資料は「誰が」、「いつ」、「どのように」作成したものを考える活動を通して、資料が作成された背景や資料を作成した人物の立場を踏まえて考えるべきこと、事実と主張を分けて考えるべきことを確認する。 歴史的事象は、資料と資料を作成した人物の立場によって見方が異なることを、知識構成ジグソー法を用いて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 風刺画は素材として選択しやすいが、解釈が多様になりやすく、深く正確な理解に近付くためにも、背景を丁寧に確認する。 事象を多面的・多角的に見る必要性と、資料を作成した人物の立場を意識できるようにする。
協働的な学び		
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いに対する自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代においても歴史が「修正」されてしまう可能性について補足する。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学びに向かう力を育成するための学習の進め方の工夫

歴史総合が1年次で設置されることが多いことを踏まえて、導入にあるような、簡単なゲーム等で生徒間の交流を促し、資料（史料）を現代まで伝えることの難しさや一次資料の解釈を原則とすべきことなどを身近に感じることができるよう導入を行い、多様な生徒が学びに向かいやすい環境をつくる。

展開では、多面的・多角的な考察につながるように、資料や歴史的事象を選択するとともに、知識構成型ジグソー法を用いることで、生徒自身が表現した内容を他の生徒と比較したり、対話したりして理解を深めるなど、自らの学びを自己調整できるようにする。

(イ) ICTを活用した評価の工夫

知識構成型ジグソー法での協働的な学びのまとめを、ホワイトボードアプリを通じて共有することで、多様な考えに触れながら自らの考えを修正・調整していくことができ、教師も生徒の思考の変化をいつでも見取ることができるため、生徒の学習改善につながるようフィードバックを行うことが可能になる。

(4) 日本史探究「B 中世の日本と世界」の計画例

ア 単元（大項目）の目標

- ・中世の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、地理的条件や東アジアの歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、中世の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・中世の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義、国家・社会の展開や文化の特色及び変容などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・中世の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

イ 単元（大項目）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、地理的条件や東アジアの歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ・諸資料から、中世の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義、国家・社会の展開や文化の特色及び変容などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 ・考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（18時間）※[単元全体の指導案はこちら。](#)

※○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

次 【時間】	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 【4時間扱】	<p>【単元（大項目）全体を貫く問い】中世社会における「百姓」とはどのような存在なのか。現在の私たちとどのような共通点・相違点があり、私たちはそこから何を学び、考えることができるか。</p> <p>(1) 中世への転換と歴史的環境 ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、古代から中世への時代の転換を理解する。 ・時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>	●		●
第2次 【1時間扱】 本時①	(2) 歴史資料と中世への展望 (1)での学習事項を踏まえ諸資料を活用し、中世の特色についての仮説を表現し、(3)の学習に向けての展望をもつ。			○
第3次 【13時間扱】 本時②	(3) 中世の国家・社会の展開と画期 (1)・(2)で表現した問いや仮説を踏まえ、中世の国家・社会の展開について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、中世がどのような時代であったかを理解する。	○	○	○

この大項目を学ぶ意義を生徒が理解し、学習の見通しがもてる問いを設定する。

【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】
諸資料の読み取りが難しい生徒に対しては、読み取り方のヒントを与える。

問いや仮説は学習過程を通じて変容することを前提に、変容を見取ることができるよう振り返りシート等をICTを用いて活用する。

歴史総合で学んだ視点や概念を活用する。

エ 学習指導案①（中世の特色に関する仮説を表現する授業）（5時間目／18時間中）

(ア) 本時の目標

「中世への転換と歴史的環境」で表現した問いを踏まえ、諸資料を活用し、中世の特色についての仮説を表現する。

(イ) 本時の展開

※エキスパート資料はこちら。

過程	生徒の学習活動等	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 中世日本の特色についての既習事項を確認する。 中世日本社会に「身分」が存在することを確認し、現代社会と中世日本の根底にある論理や背景の共通点、相違点について確認し、本時の問いにつなげる。 <p>【本時の問い】 中世社会で隔離される人がいたのはなぜだろうか。また、中世社会の特色は何か。</p>	武家社会や土地支配等、学んできたことを確認する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> 当時の人々が病気や仕事をどのように捉えていたのかについて、中世の身分制に関わる3つのエキスパート資料を読解する。 ①エキスパート資料の読解・表現 (10分) 個別最適な学び ②同じ資料を読解した人と読解した内容の共有・修正 (5分) 協働的な学び ③異なる資料を読解した人と読解した内容の共有・修正 (10分) ④「本時の問い」に対する回答の記入 (10分) ・班ごとに、意見を出し合い、中世社会の身分制の特色を表現する。 【想定する回答】 現代社会とは異なる論理（非人の存在、仏教的観念に基づく聖俗の違い等）に基づく社会が存在したのではないか。 	知識構成型ジグソー法を用いる。 班ごとに問いを検討する
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> インドの「ダリド」など、現代社会においても残る身分制等と関連付け、「私たち」が身分制等について、どのように捉え、どのように考えるべきか表現する。 	

(ウ) 学習の進め方や学習評価の工夫

a 単元（大項目）全体を貫く問いの設定

単元（大項目）全体を通じて、どの授業でどのような資質・能力を育成し、評価するかを計画し、授業で取り扱う内容を配置するため、単元全体を貫く問いを事前に設定し、単元の指導計画を作成する。

b 表現した仮説を評価するための工夫

生徒が多角的・多面的に考察して仮説を表現できるよう、現代と中世を比較させたり、他者の考察を参考にさせたりし、表現した仮説を基に学習改善につながるよう生徒に適切にフィードバックするなどの支援が考えられる。

問い：「中世における身分制の特色」を「現代」と比較して表現しよう

○「問い」と「仮説」… 授業を進める中で「問い」から「仮説」へと変化させる

→ここでは「(仮説)」から始まる (by 橋本 健)

※各資料の学習が「(1)」「(2)」の問いに対して行われるように、授業を進める中で「(仮説)」へと変化させる

※各資料の学習が「(1)」「(2)」の問いに対して行われるように、授業を進める中で「(仮説)」へと変化させる

(1) これまでの学習を通して、中世に「身分制」に関することを「問い」の形で表現しよう
→「問い」と「仮説」の両方に、関心のある仮説を記入し、その仮説を共有しよう

(2) まずは各自一組に資料を配ります

一遍上人絵詞伝第3巻・第1段

① まずは各自の「問い」を記入しよう

② 各自の「問い」を共有しよう

自分の仮説

③ エキスパート資料を配る。「中世社会」の特色とは何か、一員ずつ説明してみよう。

④ シェアして共有しよう

現代における隔離（感染症等）と中世における隔離が行われる背景の違いを考えさせる。

エキスパート資料の読解に基づき、班ごとに意見を出し合い、現代社会とは異なる中世社会の特色とはどのようなものか仮説を立てる。

ICTを活用し、表現した仮説を共有する。

(エ) 学習評価の例

A：中世の特色について諸資料や多面的・多角的に考察し仮説を表現している。

・非人として差別された人々が存在し、見た目や病気による差別が存在する社会だったのではないか。

全ての資料を踏まえて回答している。

B：仮説を表現している。

・仕事によって階層が分かれていたのではないか。

自分が読解した資料だけを踏まえて回答している。

C：仮説を表現しようとしている。

・差別はよくないと思う。

資料を踏まえて回答していない（資料の読み取り方の指導を行う）。

オ 学習指導案②（歴史総合で使用した概念を拡張する授業）（8時間目／18時間中）

(ア) 本時の目標

百姓の「逃散」を題材に、歴史総合における「自由」の概念を拡張し、中世における「自由」とは何か比較・検討しながら、中世社会の特色を理解する。

(イ) 本時の展開

※授業で使用した資料等はこちら。

過程	生徒の学習活動等	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 人は逃げる時、どこに逃げるか、その場所はどうな意味をもつのかについて、現代的な視点で考える。 逃げる行為の意味を確認し、中世の百姓が逃げることと、根底にある論理とどのような共通点や相違点があるのかについて、本時の問いにつなげる。 <p>【本時の問い】 人が逃げる際に選択する場所は、どのような意味をもつのか（中世における「自由」とは何か）。</p>	<p>生徒の見解が深まるように、教員は机間巡視を行う。</p>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> 中世の一揆、逃散及び歴史総合における「自由」に関わる資料を比較・検討し、中世における「自由」とは何かについて、<u>3つのエキスパート資料</u>を読解する。 ①エキスパート資料の読解・表現 (10分) 個別最適な学び ②同じ資料を読解した人と読解した内容の共有・修正 (5分) 協働的な学び ③異なる資料を読解した人と読解した内容の共有・修正 (10分) ④「本時の問い」に対する回答の記入 (10分) 班ごとに、意見を出し合い、中世社会の「自由」の特色を表現する。 <p>【想定する回答】 人と人の縁が切れる場所。</p>	<p>知識構成型ジグソー法を用いる。</p> <p>現代との共通点や相違点を探る活動を入れることで、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いに対する回答を振り返りシートに記入する。 人が逃げる行為の意味を相対化し、現代社会を見る視点へとつなげる。 	

【生成AIに係る留意点】
 ・生成AIツールの利用規約の遵守
 ・生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめるような使い方、著作権悪用外資に関する事前学習の実施
 ・最後は自分の判断や考えが必要であることを十分に指導 など

(ウ) 学習の進め方や学習評価の工夫

- グループワークなどの場面では端末や生成AIによる音声入力・記録を用いて、生徒の表現や活動を見取る。その上で生徒がどこにつまずき、どの部分の資料読解に課題があるのかを把握し、個に応じた指導に生かす。
- 各授業では「問い」を設定し授業を行う。その際になぜその「問い」を考える必要があるのかを検討して設定させる。
- 個別最適な学びの場面を設定するため、エキスパートの資料は、ICT端末等を活用して個人で読解させる。その後、個人の考えを相対化するため、協働的な学びの場面を「知識構成型ジグソー法」を用いて授業を実施する。異なる見解の資料を用意する中で、生徒が建設的に協議できるよう、創意工夫する。

(5) 世界史探究「A 世界史へのまなざし」の計画例

ア 単元（大項目）の目標

- ・ 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境の関わりを理解する。
- ・ 衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象を基に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。
- ・ 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。
- ・ 諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現する。
- ・ 世界史へのまなざしについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 単元（大項目）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境の関わりを理解している。 ・ 衣食住、家族、教育、余暇などの身の回りの諸事象を基に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現している。 ・ 諸事象の来歴や変化に着目して、主題を設定し、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界史へのまなざしについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（3時間）※○「評価に用いる評価」、●「学習につなげる評価」

次 【時間】	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
第1次 【1時間扱】 個別最適な学び	【中項目(1)の問い】人類は、各地に拡散する過程で、環境にどのように適応していったのだろうか。 ・ 映像、図版、グラフ等の資料を活用して、地球環境の変化と人類の歴史の関係を読み取り、人類の拡散と環境への適応について、多面的、多角的に考察し、表現する。		●	●
第2次 【2時間扱】 本時 協働的な学び	【中項目(2)の問い】夷酋列像は、なぜフランスで発見されたのだろうか。 ・ 新聞記事を活用し、記載の内容から問いに対する仮説を立て、仮説を明らかにするために必要なことを考える活動を通じて、歴史総合の学びを踏まえながら、日本と世界のつながりについて多面的、多角的に考察し、表現する。 年間指導計画の例 ワークシート	●	●	●

単元を貫く問いや各節の問いについては1枚ポートフォリオの形にして、獲得した概念を活用しながら表現するよう指導する。

<個別最適な学び>
1枚ポートフォリオには、疑問点やさらに知りたいことを記入できる欄を設け、各自の興味関心に基づいたミニ探究ができるようにし、探究することのできる力を育てる。

歴史総合で学んだ17世紀以降の日本と世界とのつながり及びその変容を、「四つの口」や開国、明治維新など概念を活用しながら考察し、問いに対する仮説を練り上げる。

【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】
資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、見る範囲を限定するなど、掲載されている情報を精選し視点を明確にするなどの配慮をする。

【学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の例】
情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成するなどの配慮をする。

エ 学習指導案（3時間目／3時間中）

(ア) 本時の目標

問いに対して個人で立てた仮説と、その仮説を立証するために必要と考えた史料について、他者との協議等を通して多面的・多角的に考察し、より妥当性の高い仮説に練り上げ、表現する。

(イ) 本時の展開

過程	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 5分	<p>【中項目の問い】 夷酋列像は、なぜフランスで発見されたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時（①素朴概念をもとに問いに対する最初の仮説を立てる→②ワークシートに記載された史料を読解→③改めて自分の仮説を立て直す④仮説を立証するために必要と考える史料を構想）を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説は自由な発想で立ててよいが、史料に立脚すること、論理的な整合性をとることを意識するよう指示する。
展開 30分 協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで各自の考えを交流し、より妥当性の高い仮説になるよう練り上げる。 ・グループワークの内容を、各グループの代表者が発表し、全体共有する。 ・疑問点や新しい視点について意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史と当時の国際情勢を踏まえるように促す。 ・発表の際は、根拠を踏まえるように指示する。
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークと発表を踏まえて、個人の仮説等をブラッシュアップし、まとめと振り返りをGoogleフォームに入力する。 ・1枚ポートフォリオに、疑問点やさらに知りたいことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークや他者の発表を自らの仮説等と比較しながら、学びを自己調整できるようにする。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 学びに向かう力を育成するための学習の進め方の工夫

この単元での学習活動には、「教師と生徒との対話」、「史料との対話」、「生徒と生徒の対話」、「自己の内面との対話」の場面が設定されている。これらの活動を通じて多様な考えに触れ、多面的・多角的に考察する力や、自分の考察を論理的に説明したり、他者の意見を踏まえて考察したりしたことを再構成しながら議論する表現力を養い、生徒が自らの学びを自己調整することができるよう工夫している。

(イ) ICTを活用した評価の工夫

Googleフォームを活用した授業のまとめと振り返りを行うことで、形成的評価が可能となり、それらを踏まえて個に応じた指導を行うことができる。また、教師は、Googleフォームで収集した生徒の考え等を生成AIを活用してまとめることで、よりの確で深いフィードバックが可能になり、さらなる学習の調整と改善につなげることができる。

【生成AIに係る留意点】
 ・生成AIツールの利用規約の遵守
 ・生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめるような使い方、著作権悪用外害に関する事前学習の実施
 ・最後は自分の判断や考えが必要であることを十分に指導 など

Topic

観光を題材とした探究活動の取組例

令和5年度に開催された観光立国推進閣僚会議において、国内外の観光需要は急速に回復し多くの観光地が賑わいを取り戻している中で、持続可能な観光地域づくりを実現するためには、地域自身があるべき姿を描いて、観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、地域の実情に応じた具体策を講じることが有効であると提言されました。

持続可能な社会づくりについて、「地理探究」ではC(1)「持続可能な国土像の探究」で取り扱うこととしており、ここでは、活動事例を紹介します。

「観光」を題材とした「地理探究」における生徒の活動事例

C 現代世界におけるこれからの日本の国土像 (1) 持続可能な国土像の探究

	学習活動	教師の働きかけ等																																																																																			
1 時間	<p>○主題の設定 「観光による持続可能な社会づくり」</p> <p>○単元全体に関わる問いの設定 「私たちの住む地域では、持続可能な観光地域づくりに向けどのような観光プランが考えられるだろうか」</p> <p>資料の収集・分析</p> <p>○身近な地域の分析 分析の視点：私たちの住む地域では、観光について、どのような課題があり、どのような取組をしているのだろうか。</p>	<p>主題は生徒や地域の実態等に応じて、SDGs等を参考に、生徒自身が自らの課題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会の担い手となることにつながるような、心ざわしい特色ある事例を選んで設定する。</p>																																																																																			
2 ～ 5 時間	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">北海道 ●●町「宿泊税」の新設</th> <th colspan="4">令和5年度観光入込客数(下半期) (単位:人、%)</th> </tr> <tr> <th>課税団体</th> <td>北海道 ●●町</td> <th colspan="2">観光入込客数</th> <th colspan="2">前年度との対比</th> </tr> <tr> <th>税目名</th> <td>宿泊税(法定外目的税)</td> <th>道外客</th> <th>道内客</th> <th>合計</th> <th>前年度観光入込客数</th> </tr> <tr> <th>課税客体</th> <td>●町内に所在する次の宿泊施設への宿泊行為 ・旅館業法の許可を受けて行う旅館・ホテル、又は簡易宿所 ・住宅宿泊事業法の届出をして営む住宅宿泊事業に係る住宅</td> <td>4月</td> <td>27,008</td> <td>46,870</td> <td>73,878</td> <td>70,322</td> </tr> <tr> <th>税収の使途</th> <td>●町の優れた景観と環境を保全し、安全で心豊かに過ごすことができるのリゾート地としての魅力を高めるとともに、町民生活と調和した持続可能な観光の振興を図る施策に要する費用に充てる。</td> <td>9月</td> <td>44,972</td> <td>74,759</td> <td>119,731</td> <td>112,449</td> </tr> <tr> <th rowspan="4">税率</th> <td>1人1泊につき、宿泊料金が (1) 20,000円未満の場合 . . . 200円</td> <td>上期計</td> <td>285,073</td> <td>378,394</td> <td>663,467</td> <td>625,643</td> </tr> <tr> <td>(2) 20,000円以上50,000円未満の場合 . . . 500円</td> <td>10月</td> <td>28,996</td> <td>77,974</td> <td>106,970</td> <td>100,675</td> </tr> <tr> <td>(3) 50,000円以上100,000円未満の場合 . . . 1,000円</td> <td>3月</td> <td>77,611</td> <td>73,764</td> <td>151,375</td> <td>130,294</td> </tr> <tr> <td>(4) 100,000円以上の場合 . . . 2,000円</td> <td>下期計</td> <td>493,453</td> <td>444,681</td> <td>938,134</td> <td>802,354</td> </tr> <tr> <td>徴収方法</td> <td>特別徴収</td> <td>合計</td> <td>778,526</td> <td>823,075</td> <td>1,601,601</td> <td>1,427,997</td> <td>112.2%</td> </tr> <tr> <td>収入見込額</td> <td>(半年度) 162百万円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>問及び仮説の設定</p> <p>仮説①インバウンドの増加による物価高騰が、市民生活を圧迫しているのではないか。 ②市民優先価格とインバウンド向け価格の二重価格を設定することで、住みやすく、かつ、地域経済を持続的に活性化させられるのではないか。</p> <p>考察・構想</p> <p>仮説検証：図書館やウェブページで情報を収集するとともに、地理情報システムを活用し、適切に地図やグラフなどを作成し、仮説を検証する。</p> <table border="1"> <tr> <th>都市(国)</th> <th>経緯・背景</th> <th>近年の主な対策内容</th> </tr> <tr> <td>ドブロブニク(クロアチア)</td> <td>2011年に城内が米ケーブルテレビ高HBOの人気ドラマシリーズ「ゲーム・オブ・スローンズ」の撮影場所となったことから、観光客が急増</td> <td>2019年クルーズ船の来航を1日2隻まで、乗客は1隻につき4,000人までに制限、2023年からキャスターを転がして歩く行為を禁止</td> </tr> <tr> <td>ヴェネツィア(イタリア)</td> <td>2019年、クルーズ客船が埠頭に衝突した事故を受け、中心地へのクルーズ船の出入りを禁止。その際、ヴェネツィア市長はユネスコのブラックリストに同市を加えるよう提言</td> <td>2024年より日帰り観光客に対して5ユーロの入場料を徴収</td> </tr> </table> <p>まとめ・表現</p> <p>表現の視点：他者との意見交換等を踏まえ、持続可能な観光地域づくりについて考察し、観光プランについてまとめる。</p>	北海道 ●●町「宿泊税」の新設		令和5年度観光入込客数(下半期) (単位:人、%)				課税団体	北海道 ●●町	観光入込客数		前年度との対比		税目名	宿泊税(法定外目的税)	道外客	道内客	合計	前年度観光入込客数	課税客体	●町内に所在する次の宿泊施設への宿泊行為 ・旅館業法の許可を受けて行う旅館・ホテル、又は簡易宿所 ・住宅宿泊事業法の届出をして営む住宅宿泊事業に係る住宅	4月	27,008	46,870	73,878	70,322	税収の使途	●町の優れた景観と環境を保全し、安全で心豊かに過ごすことができるのリゾート地としての魅力を高めるとともに、町民生活と調和した持続可能な観光の振興を図る施策に要する費用に充てる。	9月	44,972	74,759	119,731	112,449	税率	1人1泊につき、宿泊料金が (1) 20,000円未満の場合 . . . 200円	上期計	285,073	378,394	663,467	625,643	(2) 20,000円以上50,000円未満の場合 . . . 500円	10月	28,996	77,974	106,970	100,675	(3) 50,000円以上100,000円未満の場合 . . . 1,000円	3月	77,611	73,764	151,375	130,294	(4) 100,000円以上の場合 . . . 2,000円	下期計	493,453	444,681	938,134	802,354	徴収方法	特別徴収	合計	778,526	823,075	1,601,601	1,427,997	112.2%	収入見込額	(半年度) 162百万円								都市(国)	経緯・背景	近年の主な対策内容	ドブロブニク(クロアチア)	2011年に城内が米ケーブルテレビ高HBOの人気ドラマシリーズ「ゲーム・オブ・スローンズ」の撮影場所となったことから、観光客が急増	2019年クルーズ船の来航を1日2隻まで、乗客は1隻につき4,000人までに制限、2023年からキャスターを転がして歩く行為を禁止	ヴェネツィア(イタリア)	2019年、クルーズ客船が埠頭に衝突した事故を受け、中心地へのクルーズ船の出入りを禁止。その際、ヴェネツィア市長はユネスコのブラックリストに同市を加えるよう提言	2024年より日帰り観光客に対して5ユーロの入場料を徴収	<p>インターネットや聞き取り調査などから地域の観光資源に関する情報を収集し、どこに課題があり、何を解決することで持続可能な観光地域づくりになるのかを考察する。</p> <p>観光客の増加によって起きている地域住民の生活への影響について分析し、地域住民が抱える課題について考察する。</p> <p>他地域の課題や対策と比較することで、事例として設定した地域の解決策についても多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>生徒が自らの仮説を検証するため他者の考えを参照したり、協議をするなどして、学びを自己調整できるようにする。</p>
北海道 ●●町「宿泊税」の新設		令和5年度観光入込客数(下半期) (単位:人、%)																																																																																			
課税団体	北海道 ●●町	観光入込客数		前年度との対比																																																																																	
税目名	宿泊税(法定外目的税)	道外客	道内客	合計	前年度観光入込客数																																																																																
課税客体	●町内に所在する次の宿泊施設への宿泊行為 ・旅館業法の許可を受けて行う旅館・ホテル、又は簡易宿所 ・住宅宿泊事業法の届出をして営む住宅宿泊事業に係る住宅	4月	27,008	46,870	73,878	70,322																																																																															
税収の使途	●町の優れた景観と環境を保全し、安全で心豊かに過ごすことができるのリゾート地としての魅力を高めるとともに、町民生活と調和した持続可能な観光の振興を図る施策に要する費用に充てる。	9月	44,972	74,759	119,731	112,449																																																																															
税率	1人1泊につき、宿泊料金が (1) 20,000円未満の場合 . . . 200円	上期計	285,073	378,394	663,467	625,643																																																																															
	(2) 20,000円以上50,000円未満の場合 . . . 500円	10月	28,996	77,974	106,970	100,675																																																																															
	(3) 50,000円以上100,000円未満の場合 . . . 1,000円	3月	77,611	73,764	151,375	130,294																																																																															
	(4) 100,000円以上の場合 . . . 2,000円	下期計	493,453	444,681	938,134	802,354																																																																															
徴収方法	特別徴収	合計	778,526	823,075	1,601,601	1,427,997	112.2%																																																																														
収入見込額	(半年度) 162百万円																																																																																				
都市(国)	経緯・背景	近年の主な対策内容																																																																																			
ドブロブニク(クロアチア)	2011年に城内が米ケーブルテレビ高HBOの人気ドラマシリーズ「ゲーム・オブ・スローンズ」の撮影場所となったことから、観光客が急増	2019年クルーズ船の来航を1日2隻まで、乗客は1隻につき4,000人までに制限、2023年からキャスターを転がして歩く行為を禁止																																																																																			
ヴェネツィア(イタリア)	2019年、クルーズ客船が埠頭に衝突した事故を受け、中心地へのクルーズ船の出入りを禁止。その際、ヴェネツィア市長はユネスコのブラックリストに同市を加えるよう提言	2024年より日帰り観光客に対して5ユーロの入場料を徴収																																																																																			

【「地理探究」以外の教科等で学習する際の活用例】

<p>歴史総合</p> <p>歴史と私たちに関する学習において、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを考察させる。</p>	<p>観光ビジネス(商業)</p> <p>観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて考察させる。</p>	<p>公共</p> <p>人間の尊厳と平等、民主主義、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解するため、幸福、正義、公正などに着目して、地域社会の発展と観光に係わる課題を設定して追究する活動を行う。</p>	<p>総合的な探究の時間</p> <p>SDGsの目標8「働きがいも経済成長も」について、「地方の文化や産品を広め、働く場所をつくりだすためには何が必要か」という探究課題を設定し探究する。</p>
---	--	--	---

